

2015 SSFJ 夏合宿  
～ 異業種に学ぶ ～

1. 合宿の背景と目的

SCMは、各種理論など基本的な考え方が重要であると同時に、実務的には具体的なケースを幅広く学習することが効果的である。例えば、SCMに関してある業種では既に常識となっている業務プロセスやルール、評価方式であっても、他業種からみると革新的な考え方であることも多い。実際、これまで異業種のSCMから大きなヒントが得られSCM革新が実現した場合も多く観察される。

しかしながら、異業種といえどもSCMについてのケースを共有できる機会は非常に限られているのが現実ではないだろうか。

一方、東京工業大学 CUMOT-サプライチェーン戦略スクール (SSS) では、これまで、10期200名以上のSCMを担う実務家が、多様な業種から集い、SCMについて共通の知識基盤と言語を獲得した。SSSの講師と卒業生から構成されるSSFJのコミュニティは、異業種から相互に学び合うという点でも大きなポテンシャルを有する組織といえるだろう。

これまで、CUMOTでの講義、年2回の修了プレゼン、特別講演、同窓会など、情報を共有する場は与えられていた。しかしながら、一方向での情報提供では自らが抱えるSCM問題が、そのまま解決できるほど、現実には単純ではない。SSFJのメンバーは、"議論する場を渴望" していた。

今回、現役生も含めた11期もの世代から、多様な知見、経験、見解、視座を持ち寄り、十分な議論する事により、さらに理解を深め、またSSFJのコラボレーションを図りたい。

2015 SSFJ 夏合宿では、多様な業種のSCMについての「ケース発表 or 問題認識」(当該業界では常識的な事実で構わない) をじっくりと共有し、さらなるSCM高度化へ向けて議論を行う機会を提供することとしたい。参加することは、SSFJのメンバーの特権である。

現実のケースや問題認識といっても、当然企業秘密に属することについては公開不可能であることはいうまでもない。このため、発表の内容は「当該業種であれば常識となっている内容」であり、「当該企業が特に先行している領域」を含める必要は無い。さらに、配布資料は必須とせず、非公開を前提とした議論を行うこととする。議論の内容は、SSFJコミュニティメンバー内だけで共有するべきものであることはいうまでもない。

発表は、SCM革新の成功例だけでなく、現在当該業種が、今、まさに直面してい

る、もしくは長年の構造的な問題の指摘があつてよい。むしろ望ましい。自らが感じていて、当該業種ではまだ誰も指摘していないような問題が、他の業界では既に解決されている問題である可能性もある。異業種から学ぶことは大きいはずである。

また、過去の失敗ケースから問題提起していただくことも有効と考える。SCM 革新は過去の失敗の積み重ねの上に、結果として大きな成功に繋がってきたという面も否めない。

もちろん、業務プロセスの細部について、異業種にそのまま適用できることは無いと考えられる。ただし、基本的な考え方、組織的な問題や SCM 革新の進め方などでは、大いに参考となるだろう。SSFJ のメンバーの積極的な参加を期待したい。

## 2. 合宿の進め方とスケジュール（例：詳細は変更される可能性があります）

都心から少し離れたオフサイト（案：湘南国際村）での 1泊2日（8月22～23日）の合宿形式とする。

進め方の基本は、一部講師からの話題提供とともに、参加者が交互に、発表 or 問題提起（約 20分～45分）を行い、コーディネータ（講師）の司会の下で、質疑・議論（約 15分）を行い、相互理解を深めるという形式で行う。

また、適宜、グループ討議、ブレインストーミングからの発表。グループを入れ替えての討議なども行いたい。例：「実務家からみた SCM 革新についての問題意識と解決策」等

ただし、今回は初の試みということで聴講及び議論参加のみも認めることとする。（もちろん、来年もしくは次回は発表を期待するものである。）

また、宿泊が難しい場合には、宿泊無しでの参加、どちらか 1日のみでの参加も歓迎したい。

## 3. 「発表 or 問題提起」のテーマ（例）

SCM についての話題であれば、基本内容は問わない。ただし事前に合宿の事務局へテーマ・概要などについて提出すること。事務局は、内容の類似性などを鑑み、発表の順番などを工夫する。

例えば、下記のような話題であると興味深い議論ができるだろう。

- ① 自分が体験した改革の成功例・失敗例（10年以上前でも結構です）とその理由
- ② SCM に関して、今、認識している問題（業界では共通の問題認識で結構です）
- ③ 自分が考える当該業界、特定企業の SCM 革新の方向
- ④ 他企業、もしくは自らが属する産業の SCM 成功ケースの分析 他

#### 4. 「発表 or 問題提起」の論点（例）

（コミュニケーションの円滑化のための例示：必ずしも全て従う必要はない）

- ① SCM を取り巻く環境とその変化（需要特性、供給特性、価格構造他）
- ② SCM オペレーションの現状（現実そのものではなく、概念モデル化していただいて結構です
  - ・SCM ネットワークの構造、ノード間 LT、受発注の LT 他
  - ・特に、各種計画の記述については、計画メッシュ（商品メッシュ、時間メッシュ）、サイクル、スパン、タイムフェンス）を明確に記述いただけると議論が効率的に進むと思われます。
- ③ SCM オペレーションの背景としての、組織構造、社内ルール、取引関係・ルール、業績評価の考え方（在庫は営業部門の責任、・・・等）、IT 支援の状況他
- ④ SCM 改革の方針・基本的な考え方
- ⑤ 狙うべき効果・もしくは顕在化した効果、そのメカニズム（できれば定量的に・シミュレーション、解析、双方とも結構です）
- ⑥ 成功要因／失敗要因他
- ⑦ その他 主張したいこと。

#### 4. 参加講師（7月23日時点：予定）

圓川隆夫先生、高井英造先生、藤野直明先生、橋本雅隆先生

#### 5. その他

- ① 費用 参加費 17000 円／3 食付き会議室宿泊費の実費負担
- ② 日帰り：1 日目のみ 6,000 円（夕食込）、2 日目のみ 4,000 円（昼食込）
- ③ 直前に参加者数に変更（増減）になった場合は、一部人数割りで再計算／概算見積  
15 人参加想定／合宿パック+ $\alpha$
- ④ 講師料 0（ボランティア参加）

6. 合宿スケジュール (案) (ケースが揃わない場合は講師が新ネタを準備)

■ 1日目 開始 13:00~ 於 湘南国際村

- 1) 13:00~ 開会の挨拶 (圓川先生、or 高井先生)
- 2) 13:10~ 議論の進め方についての説明 (藤野)
- 3) 13:15~ 圓川先生よりの発表 (調整中)
- 4) 14:15~ グローバル SCM についての話題提供 (橋本先生 (with 藤野先生))  
(45分+15分質疑)
- 5) 15:25~17:35 複数の発表 or 問題提起 (間に5分休憩)
- 6) 夕食
- 7) 19:00~20:30 複数の発表 or 問題提起 (間に5分休憩)
- 8) 20:30~ グループワーク  
「実務家からみた SCM 革新についての問題意識と解決策」  
(21:00~ 懇親会：缶ビール+おつまみ)

■ 2日目 開始 08:30~ 於 湘南国際村

- 1) 08:30~ 「消費財のインダストリ 4.0」(藤野)
  - 2) 09:30~12:00 複数の発表 or 問題提起
  - 3) 昼食
  - 4) 13:30-14:30 複数の発表 or 問題提起 (間に5分休憩)
  - 5) 14:40~16:00 グループ討議の発表
  - 6) 最後に (圓川先生 or 高井先生)
  - 7) 事務連絡 会計報告他
- 番外編：16:30~ 夕陽を観ながら Party 有志 (於音羽の森 テラス：別途費用)

以上